

議事要旨

1 会議名	第1回 吹田市ごみ減量再資源化推進会議
2 次第	1 食品ロス削減の取組について 2 プラスチック削減の取組について 3 ごみ減量の施策について 4 各構成団体の取組状況について 5 その他
3 開催日時	令和5年(2023年)8月3日(木) 午後2時00分～午後4時00分
4 開催場所	メイシアター 集会室
5 出席委員	会長 市民団体 8名 事業者 10名 行政 2名 合計 21名
6 発言等の 要旨	<p>次第1 食品ロス削減の取組について</p> <p>【事務局】 令和5年1月に実施したフードドライブの取組結果、令和5年度のてまえどりの概要を説明</p> <p>【市民団体】 大学から食品等の提供はなかったのか。また、事業者からの提供が増えるといいと思うがいかがか。市民からの提供が少なく感じるので、認知度を高める工夫が必要だ。</p> <p>【事務局】 基本的には市民からの提供を主としているので、企業や大学には声掛けしていない。どうしても提供を希望される場合は、事業者にフードバンク大阪を紹介している。認知度を高める工夫としては、SNS や市報に加え、受付場所を増やすなどしている。市のフードドライブは年2回であり、随時希望される方のために、事業者が実施しているフードドライブをホームページで紹介している。</p>

【市民団体】

「フードドライブ」という文言がないため、市報が分かりにくい。

【市民団体】

「フードドライブ」という言葉は浸透していると思うが、受付場所が少ないので増やしてほしい。

【事務局】

市報は、広報と相談し、より分かりやすいようにしている。

【会長】

前回の会議で私が、片仮名では市民が理解できないと発言したのでこの表現になったのかもしれない。「フードドライブ」を定着するためにもこの言葉を入れてもいいと思う。

【事業者】

配布されている資料は第2回目となっているが、第1回目との比較はどうか。組合員でも浸透するまで時間を要した。常設することで認知度を上げるなど、長い目で取り組むことが必要である。

【会長】

フードドライブが広まり、提供品が集まり過ぎて困ることはないか。

【事務局】

フードドライブは家庭で余っている食品を提供していただくことが目的であり、わざわざ購入したものを提供されるものではない。家庭で購入した食材を使い切る。これができれば、フードドライブも量が減っていく、それが最終的目標である。

提供された食品等の保管場所の問題がある。保管できないほど集まった場合は、フードバンクにそのまま寄付することがある。

【会長】

「フードドライブ」という名称を周知し、時間を掛けて、徐々に広める必要がある。しかし、たくさん集めることが目的ではないことが見えてきた。

【市民団体】

「てまえどり」という表現だけでは分かりにくい。てまえどりキャンペーンを見かけたという人が少ないように感じた。消費期限が少しでも長いほうを買う人も一定数いたが、食品ロスの意識は高まっているように感じている。周りからは、意義を訴えるならもう少しストレートな言葉がいいという意見があった。「手前から取って食品ロスを減らそう」、「食品ロスを減らすご協力を」など。

【事業者】

てまえどりのポップを消費期限の短い牛乳、ヨーグルト、豆腐等の場所で常設している。「食品ロスをなくそう。すぐにお使いの場合は手前から取ろう」という文章を提示し、てまえどりをお願いしている。

ネットスーパーで注文されている場合は使用期間が分からないので、消費期限が一番長いものを提供している。

【事業者】

巻き寿司の大量廃棄などから、事業者は日々、多くの食品ロスを出しているイメージがあると考えている。確かに当日にしか売れないものを廃棄することもあるが、消費期限が長い食材を廃棄することはなく、消費者が思っているよりは少ない。日用品は、てまえどりなど消費者の協力が普及していることや、値引き等で消費している。

フードドライブで集める食品は、年間2 t程度である。フードドライブは、たくさん集まることが成功ではないと思う。

【事業者】

フードドライブを常時、実施しており、昨年度比で1.7倍が集まり、市民に浸透していると考え。諸問題としては、集まった食品の回収、配布に人件費、運搬費がかかり、保管場所も必要になる。たくさん集めることを目標にすると食品ロス問題とは別の問題になる。

各市でてまえどりキャンペーンを行っているが、せめて北摂地域だけでも統一のポップにして欲しい。

【事務局】

てまえどりのポップの統一等に関しては、これからの検討課題である。

次第2 プラスチック削減の取組について（資料2）

【事務局】

吹田市が設置する使い捨てコンタクトレンズの空きケース回収ボックス及びマイボトル用給水機設置箇所を説明

【市民団体】

コンタクトレンズの空きケース回収ボックスを眼科医に設置するのはどうか。

【事務局】

現時点では眼科医とは話はしていない。今後、医師会等を通じての依頼を検討するが、個人院の設置は、数も多く回収をどうするかなどの問題がある。それよりも、まずは、吹田は大学の街なので、若者向けには大学に設置しているが、もっと大学に設置するよう呼びかけたい。

【市民団体】

市が設置している給水機以外にも独自に給水機を設置している施設がある。全て載っている地図が欲しい。

市が設置している給水機には、空白地帯があるが、今後どうするのか知りたい。

北千里駅周辺、北千里体育館の給水機の設置場所が、分かりにくかったため、広報する方法を検討してはいかがかと思う。

【事務局】

地図については、施設等の許可なしに掲載することはできないので、設置している給水機のタイプなども含めて、掲載を検討する。

市の給水機の未設置地帯へは、増やす方向で検討をしている。市では給水機を設置してもいい民間施設を探しているので協力を得たい。

【事業者】

スーパー等は飲料水を販売しているので設置は難しいと思うが、吹田市以外で給水機を設置している自治体はあるか。

【事務局】

西宮市、尼崎市、豊中市で実施している。

次第3 3 ごみ減量の施策について（資料3）

【事務局】

株式会社マーケットエンタープライズとのリユース促進についての連携について説明

【会長】

周知方法はどのようにするのか。

【事務局】

ホームページ上とごみの収集表にも添付して周知する予定である。

【市民団体】

具体的な値段の査定方法はどうなのか。

【事務局】

査定して欲しい品物の写真の添付と状態を記入して送信すると、プラットフォームに登録しているリユース業者が査定する。

リユース業者によって条件の異なった見積りを出すので、その中から選ぶことになる。処分ではなくリユースであることが前提。

【会長】

NATSなどで横断的に連携できるのか。

【事務局】

豊中市、西宮市は既にやっているのので、連携の話は出ていない。

【市民団体】

フロンガスを使用している家電のリサイクルは、ガス処理が大変である。業務エアコンのガス処理をしてくれる業者が少ないので苦慮している。電子関係の基盤、リモコンの部品をメーカーと相談しながらリサイクルできるように考えている。

次第4 各構成団体の取組状況について

【事務局】

各構成団体の取組状況について説明。

【事業者】

見切り品の値引きについて、以前は、「大特価」、「お買い得」というポップだったが、昨年末から「食品ロスをなくそう」「すぐに使うならお得です」に変更し啓発もかねて、顧客の心理的变化を促している。

商慣習の1/3ルール、賞味期限の1/3以内に製造業者から小売業者に納品しなければならないルールを1/2にするよう調整している。

今年から一部店舗で透明プラスチックの回収をしている。

大阪市内のプロセスセンターから排出されるカットフルーツ、キャベツの芯などの食品残渣（1日あたり12トン）は、以前は、一般廃棄物で処理したが、令和4年3月からバイオガス発電を設置し、メタンガスを発生させ、ガス発電を稼働させている。残渣は、水と土に変えており、減容率は、90%である。

【事業者】

資料に掲載している取り組みについては、何十年も前から、どこの事業者も取り組んでいる。

賞味期限に対する意識が今までとは違い、非常に厳しいことが、ごみが増える要因ではないかと思う。こういった理由で事業者は、日付の管理が厳しくなり、リサイクルに努めていることを理解してほしい。

【事業者】

今後は、食品残渣のリサイクルをやっていきたい。炭化・たい肥化を一部店舗で実施している。

【事業者】

事業的メリットとのバランスが重要である。食品ロスを半減する目標を2018年に掲げて、継続して取り組み、2022年度の食品の廃棄は、2015年度比で83.8%であった。

プラスチック削減は、経済との両立を図りながら継続し、使用率としては2017年度比で93%になった。

市民の行動を、どう変えるかという役割を担うには事業基盤が必要である。

【事業者】

プラスチックごみの削減としての取組は、パンの包材の見直しで2枚切りのクロージャーは廃止している。これによって30%のプラスチック

使用削減を実現している。

カトラリーをプラスチック製から紙製に変更し軽量化している。スプーンで5.1%、フォークで2.4%の削減を進めた。

パン運搬用の箱（番重）が壊れても廃棄せず、リサイクルして使用し、前年度は21万枚をリサイクルした。

工場では、食品残渣付廃プラが多いため、削減するべく月1回の研修を通して、従業員に教育している。

廃プラの回収業者を選定して、さらにリサイクルができるよう、固形燃料化できるように努めている。

【事業者】

卸小売業の慣習の1/3ルールを1/2ルールは製造業者としては在庫の廃棄が減り助かる。

製造において、包材の不良による廃棄を減らすべく工夫をした結果、不良率が5.7%から0.8%になった。年間370kgの包材廃棄が減った。

製造工程で、どうしても屑が出るが、飼料としてリサイクルしている。

昨今の原料高で厳しいが、廃棄を減らすという点で製品改良をして努力している。

【行政】

社会福祉協議会は、困窮した学生への食糧支援を企業の協力で行った。今年の7月の募集では、コロナの時よりも希望者は減った。年明け1月に、飲料メーカーの支援で、困窮した学生を支援する予定である。こういった活動が、食品ロスの削減につながればいい。

【行政】

今回の話を聞いて、生産者、販売事業者の努力を子どもたちがどこまで知っているかと感じた。現在、子どもたちはSDGsについて学んだり、リサイクルプラザに社会見学に行ったりしているが、広い視野を持って学ぶことが大切である。

【事業者】

店舗では飲料水の販売もしているが、マイボトル用ではないが、ミネラルウォーターの給水サービスを実施している。紙コップを備えつけて熱中症対策として提供している。食品ロスやプラスチックごみ削減は大きな問題であるが、食品リサイクル法や容器包装リサイクル法に定めら

れている数値目標について、毎年、国に報告書を提出し、達成できない場合は是正文書を提出している。数値目標も年々上昇し、大変厳しい状況で達成できていない。

製造販売もしているので非常に多くの食品残渣が出る。牛脂は全てリサイクル、野菜くずは全て回収してリサイクルして、たい肥化しているが、費用がかかる。

また、食品の容器のリサイクル料金も高額なので、できるだけ食品トレーを回収しリサイクル、軽量化、大きさを小さくしている。

リサイクルできるものは全てリサイクルするという世になれば、事業者としてもできることしたいと思う。

【事業者】

消費税課税事業者であるため、10月から開始するインボイス制度に対応するため、管理システムを導入した。このシステムは大半が電子作業で、メール添付できることから、ペーパーレスになり、封入作業もなく、業務の効率化ができた。

【市民団体】

発泡トレーは大体の店舗で回収するが、透明トレーが回収されない店があるのはなぜか。

【事業者】

発泡トレーと透明トレーの両方を回収している。トレーは、たくさん種類があり、お客様に分別をお願いするのは、せいぜい2種類程度だと考えている。そのため、発泡トレーとそれ以外という分け方にしている。

回収している以外のトレーもリサイクルは可能だが、分別に手間がかかり過ぎるため、サーマルリサイクル、焼却ごみとして処理している。

卵パックについては、リサイクルできる業者は、少ないので回収しない店が増えた。トレーの種類を統一してくれるとより資源化できるが、店舗からメーカーには言いにくいので消費者の声に期待したい。

吹田市はごみ袋の指定がないので、市内の店舗でのペットボトルもトレーも回収量は少ない。ごみ袋の有料化を行うと家庭ごみを減らすために回収量は増える。